

令和5年度第1回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和5年7月25日（火）14時00分～15時30分
- 2 場 所 長崎市役所 8階 庁議室
- 3 出席者 **【市長】**
鈴木市長
【教育委員会】
橋田教育長、中西委員、小原委員、桑原委員、松本委員、北川委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部長、都市経営室長、同室主幹
【教育委員会事務局】
教育総務部長、総務課長、同課課長補佐
学校教育部長、学校教育課長、教育研究所長
- 5 次 第
（1）開会
（2）内容
ア 市長挨拶
イ 教育委員紹介
ウ 今後の市政運営について
エ 意見交換
オ その他
・令和5年度第2回以降の総合教育会議について
（3）閉会

6 議 事 以下のとおり

事務局 (市長部局)	<p>【14：00 開会】</p> <p>本日はお忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。 ただいまから令和5年度第1回長崎市教育総合会議を開催いたします。</p>
市長	<p>【市長挨拶】</p>
事務局 (市長部局)	<p>【教育委員紹介】</p> <p>では、ここからは次第に沿って市長から進めさせていただきます。 市長、よろしくお願いします。</p>
市長	<p>【今後の市政運営について】</p> <p>それではここから意見交換をお願いしたいと思います。 質疑等ある方はマイク持ってまいりますので、よろしくお願いいたします ます。</p>
委員	<p>とてもわかりやすく、期待を持てるところです。 「あぐりの丘」の「あぐりドーム」という全天候型の施設が開園した当初に行っていたのですが、人気があり、90分の時間制で「もう帰りたくない」と泣き出す子もいました。 しかし、一方で、遠くて車がない人は、バスも少なくなかなか行きにくい ため、まちなかに「あぐりドーム」の規模ではなくてもいいので、施設 ができないのかという声を聴いたりしていました。 市役所の隣りで、交通の便も良い市民会館に、幼児がお母さんと遊べる ような施設はできないものか、そうするとお母さんたちが楽になるのでは ないかと思います。 また、特に少子化で一人っ子であると、なかなか外へ出て遊ぶ機会もな いかもしれないので、そのようなものはどうかと想っているところです。</p>
市長	<p>私も政策を考える中で、特に子育て世代の皆様の方から、まさに今おっ しゃったように遊び場がまちなかに少ないという話はよく聞いておりま したので、遊び場はもっと欲しい、できるだけもっと整備するべきでは ないかと考えております。 昔に比べると子どもが減って、まちなかの子どもの笑い声や元気な声</p>

<p>教 育 長</p>	<p>だんだん減ってきており、街の活気を損なっているという危惧もありますので、もう一度子どもの笑い声が響くような街にしたいという思いがあります。</p> <p>遊び場を市民会館にというお話がありましたが、新市庁舎の2階が「イーカオ広場」といって、こども部を中心とする子育て関係の担当部局のフロアになっております。</p> <p>そのフロアの真ん中が、子どもの遊び場に使えるようなスペースになっており、お子さんをそこで遊ばせているという光景をよく見ますし、市役所に用がなくてもそこに子どもを遊ばせに来ているというご家庭もありますので、そういうところもぜひ活用していただければと思っています。</p> <p>また、官民連携の取組みとして、民間の方でも、もっと子どもの遊び場になるような場所を作っていただきたいと考えています。</p> <p>来年秋に開業する予定のスタジアムシティなど、これから新たに様々な民間の施設ができますので、市の方からも整備計画段階からそのような配慮をしていただきたいとお願いしています。</p> <p>例えば、スタジアムの上空をかすめるような形でジップラインを作ったり、スタジアムシティの周辺にも子どもと遊べるような広いスペースもあるようですので、活用できればと思っています。</p> <p>市民会館については、建物自体が50年ほど経過していますので、耐用年数65年ほどで、あと15年ほどでどうするのかという議論を始めなければならない状況になっています。</p> <p>文化ホールについては廃止の方向を打ち出しましたが、市の方で今後の活用を検討されているということなので、その辺の活用とリンクした形で市民会館をどうするのかということも議論をされるのではないかと考えています。</p> <p>いずれにしても、市民会館は、全体のまちづくりのグランドデザインの中で非常に重要な位置になると思いますので、教育委員会としても積極的に関与していきたいと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>1、2週間ぐらい前にこの資料をいただき、事前に拝見させていただきました。</p> <p>本で読んだ他都市の事例なのですが、千葉県流山市の事例で、1990年代に5万人位の人口の都市が、現在、直近21万人まで人口が増えているという話です。</p> <p>2010年頃に、東京と千葉と茨城をつなぐ「つくばエクスプレス」がで</p>

<p>市 長</p>	<p>き、インフラが向上したというのも一つの要因ですが、その他の対策として、市が保育ステーションを作りました。</p> <p>このステーションの役割は、お父さんやお母さんが、7時位に子どもを預けに来て、預かった子どもをそこからバスで各保育園に送り、保育園が終わったら、ステーションに子どもたちが戻ってきて、併設の保育園でお父さんやお母さんが迎えに来る夜の8時頃まで延長保育を受けられるというもので、子育て世代に評判が良かったという話でした。</p> <p>それに併せて保育園や学校も増え、2010年以降、人口増に伴って小中学校も増えているということです。また、保育士の待遇も月額4万ぐらい手当を出し、待遇改善に努めたということで非常にいいケースだと思います。</p> <p>長崎の中で考えると、年収が少ない、土地が高いといった色々な問題がありますが、今後、共働きは必ずスタンダードになっていきますので、例えば、長崎市は7時に連れて行って8時に迎えに行けばよいといった施設がある、「子どもが育てやすいまち」をテーマにしたらいいのではないかと考えています。</p> <p>まさにその「子育てしやすいまち」にするとということが、長崎を魅力的なまちにし、子育て世代あるいは現役世代の人たちがこの長崎に住みたいと思うようになってくるということだと思います。</p> <p>そのためにも、今おっしゃったような保育ステーションみたいなアイデアは参考になるものだと思います。</p> <p>流山市は首都圏のベッドタウンですので、魅力的な職場や仕事があり、大量の労働者がいて、どこに住むかという話で、隣の市町との地域間競争になっているような構図があります。</p> <p>長崎の場合には、魅力的な仕事が少ないなどの理由で人口が減っている状況なので、まずは、そこにしっかり取り組みつつ、同時に魅力的な子育てのできるようなまちづくりを、まさに車の両輪として進めていくということが必要だと思っています。</p>
<p>委 員</p>	<p>子育て支援の幼児教育や保育教育の面については、先ほどのお話のとおりですが、小学生や中学生に視点をあてた時に、市長がおっしゃっていた「転機」が子どもの学校教育に来ています。</p> <p>私たちの世代には、部活動に入って当たり前という時代の中で育ってきましたが、数年後には、文科省が学校から部活動を切り離すような計画を立てているのではないかと思います。</p>

<p>市長</p>	<p>もちろん、教育委員会ではそのことについても一生懸命に考え取り組んでいるところですが、ここで考えなければならないのは、子どもたちが部活動によって協調性や自己満足など、いろいろなことで力を得ている部分も大きいということです。</p> <p>今から地域に移るという時に一番の問題は、勝手に「地域に移すぞ」と国が言っているものの、地域からは、それを「受け取るぞ」、「地域がやりますよ」といった意思表示がおそらく無いのではないかと思います。</p> <p>両方にとってプラスとなり、価値を生み出すためには、子ども、保護者、それから地域の方々とのつながりをしっかり持って、話し合いながら進めていかなければと思います。</p> <p>教育委員会ももちろん進めていきますが、軌道に乗るまでは、学校から部活を外に出して誰かがやっていくのではなく、新たな仕組みが立ち上がるまでは行政の力も必要だと思います。</p> <p>小中学生の保護者の方々は、これからどこで部活をすればいいのか、不安を持って当然だろうと思います。教育委員会としても緻密に計画を立てて対応していきますが、少子化対策を考える行政においても、そのような視点を持っていただければと思います。</p> <p>昨日の「シンナガサキミーティング」で、まさに部活動の地域移行の話が出ました。クラブチームを使うという方針も文科省の方から出ていますが、実際にそのクラブチームをどうやって使えばいいのか、さらにそのクラブチームが学校の施設等を使えるのかなどまだわからないところが多いので、不安の声があがっておりました。</p> <p>おっしゃる通りだと思います。</p> <p>この話の出発点は、教職員の皆さんの負担が大きいことです。部活動を教職員の皆さんが担当することによって、休みも充分取れず超過勤務が常態的になっています。</p> <p>そのような職場ということもあって、若い教職員の方々がどんどん退職したり、あるいは教職員がかつてほど人気の職業になっていない状況です。</p> <p>そういう残念な状況にあるので、教職員の働き方改革では、学校をより魅力的な職場にするために、部活動を何とか先生たちに負担のかからないような形にできないかというのがそもそもの発想だったと思います。</p> <p>うまく両立させるためには、色々と知恵を絞らなければならないと思いますし、移行期にガラッと変わるわけにはいかないと思います。</p> <p>その点はソフトランディングという徐々に変えていくようなステップ</p>
-----------	--

<p>委員</p>	<p>も踏んでいかないといけないのかなと思います。</p> <p>いずれにしても、全国の学校現場が本当に困っていて、保護者の皆さんも不安に思っている話でもあるので、これから文科省の方でもまだ色々と考えていく話だと思います。</p> <p>しっかり注視しながら、また長崎市としても皆さんが不安を抱えないように、そして何よりも子どもにしわ寄せが行かないようにしっかりと考えていきたいと思っています。</p> <p>キャリア教育について、長崎県と東京都と大阪府と様々な比較をしてみたのですが、その中で主要産業ベスト3、卸売小売業は、この3自治体の中でトップでした。</p> <p>長崎は高齢者が多いので当然なのですが、第2位が医療福祉関係で第3位が製造業です。</p> <p>東京都は、2位がサービス業で3位が不動産業。そして、大阪はものづくりのまちですので、2位が製造業で3位がサービス業でした。</p> <p>長崎にサービス業というのがやはり生産年齢の人口を増やす一つのキーなのかなと考えます。</p> <p>スタジアムシティなどの新しいまちの基盤もでき、アミュプラザも博多に次いで二番目に九州では大きい。その辺りが受皿となって、サービス業が発展するのではないかと思いますので、若い人達がサービス業に就くための施策を重点的に進めていただければと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>サービス産業や交流産業、観光産業は、経済活性化にとって一番即効性が高く、経済波及効果も大きいと言われております。</p> <p>日本全体で少子高齢化・人口減少等が進んでおり、日本国内でその少ないパイを取り合っても先が見えている状況の中では、インバウンドが重要となってきます。</p> <p>訪日外国人旅行者を誘致することで、純粋に経済の付加価値をつけるということが出来るわけです。そのようなインバウンドの推進というのは、大きなチャンスだと思っています。</p> <p>長崎はこれだけ観光の魅力に溢れたまちですので、これからインバウンドをはじめとした交流を高めていく中で、単に交流の数を高めるだけではなく、交流の質を高めることが重要です。いわゆる旅行消費額のことで、一人の旅行者が訪れた時に、その街にどれだけお金を落としていくかというところなんです。</p> <p>また、MICEなどでの国際会議やイベントなどで長崎を訪れる方やと</p>

<p>委員</p>	<p>りわけ国際会議などで来る外国人のお客さんは、かなりのお金を落としてくれまので、ぜひ交流産業サービスの振興を進めて行きたいと思っています。</p> <p>子ども子育て政策については、どれもありがたい戦略だと思っています。その中で課題を抱える子どもと親への支援についてですが、発達支援や発達障害、不登校もそうですが、そのような子どもは増えているという印象があります。</p> <p>長崎市はそういうところにすごく力を入れてくださっていて、発達に問題がある子が一人でもいれば、特別支援学級を設置するなど、積極的に関わっているのは本当にありがたいと思っています。</p> <p>中学校を卒業し、そのような子どもたちを受け入れるような高校も増えてきて、通信教育もいろいろなところがあります。ただし、卒業して、就労となった時に壁があるようで、なかなか関係機関との連携がうまくいっていない、持続していないというところがあるのかなというのを感じました。</p> <p>実際、小学校のときに学習障害と言われ、そのことを受け入れるのが難しく、支援の手が届かないまま、高校まで上がってきたという子もいます。</p> <p>また、専門学校に来て辞めていく子が何人かいたので、やはり保護者も発達に関して今は情報もたくさんあるので知識はありますが、支援まで届いていないところも多いと感じていますので、関係機関と連携を取りながら、持続できるようなところまで支援していただけたらと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>関係機関との連携は大切だと思います。先ほどの人口減少対策については、国や県に限らず様々な機関と横で連携しながら、やっていかなければいけないと思っています。</p> <p>また、何らかの課題を抱えているようなお子さんに対する支援ですが、それはすごく色々な配慮が必要だと思います。</p> <p>例えば、就職についてもそういうお子さんの何かいい所や強みを伸ばしてあげることが大切で、色々なことをやるのは苦手かもしれないが、特定のことに特化してそれをコツコツと地道に集中してさせると、すごくいいことをできたりするので、そういったところの理解を深めていく必要があると思います。</p> <p>そのためには、まさにおっしゃるような、横の連携や情報共有が必要だと思いますので、しっかり配慮できるようなネットワークづくりを行うために、いただいたご意見を踏まえながらしっかり勉強して行きたいと思</p>

<p>委員</p>	<p>ます。</p> <p>今後の政策の柱の一つに「少子化対策」が入っているということでお聞きしました。</p> <p>保育の質の向上についてですが、お子さんが産まれて育てるうえで、現状、ほとんどの家庭が共働きであると思います。そうすると、子どもがそれなりに大きくなるまでは預けざるを得ない状況です。</p> <p>預けないと生活ができないため、先ほど所得が低いというのもあったと思うのですが、結局そういう状況にほとんどの家庭がなっていると思います。</p> <p>やはり子どもを預けるところ、保育の場を充実させるというのはすごく大事だと思います。現状それが充実しているかという、そうじゃないところがあると思います。</p> <p>今回、新規事業で子ども子育て支援事業計画策定費とか入っていますが、策定にあたり、子育て支援サービスの利用状況、今後の利用希望のニーズ調査を行うということはすごくいいなと感じました。</p> <p>大事なのは、この先に何をやっていくのかですが、子どもが病気になったときにすぐに預けられるような病児保育や延長保育などを充実させないとなかなか働きに出られないということになると思います。</p> <p>おそらく、このニーズ調査をしていくと明らかになると思いますが、病児保育や延長保育などが充実していかないと少子化対策につながっていないのかなと思っているところです。</p> <p>また、それは児童の方にも関係しており、放課後児童健全育成事業の事業費が拡大されていますが、小学生に対しても、放課後児童等に対する支援を充実させていくということは非常に大事なのではないかと考えているところです。</p>
<p>市長</p>	<p>まさにそういった色々な子育てのニーズは、家庭によって様々だと思いますので、どのようなニーズが実際にあるのかが、今度の調査によって色々と浮き彫りになってくるといいかなと思っています。</p> <p>そういったニーズを踏まえながら、こういった取組みをやっていけばいいかということを考えていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは次第の（５）その他ということで、今後の総合教育会議のテーマなどについてご意見をいただきたいと思っています。</p>

<p>委員</p>	<p>まずは事務局から、お手元の資料3の「令和5年度第2回以降の総合教育会議」について説明させていただきたいと思います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p> <p>【事務局説明】</p> <p>最近、「一般社団法人明日へのチカラ」というところが「ドコデモこども食堂」というシステム体制を作ったことを知りました。</p> <p>長崎市であれば、市内の飲食店が、うちはいつでもどこでもいい、それに参加しますよとクーポンを申請すれば、いつでもどこでも食べられるようになるシステムがあります。</p> <p>こども食堂の取組みが進んでいるのか、あるいは今後どうするのかというのは検討してみたいと思います。</p> <p>市長</p> <p>私も新聞記事で拝見しまして、今、実際に、そういうことについて本市でも何ができるかを勉強しているところでございます。</p> <p>それでは今いただいた意見も踏まえて、次回の会議開催に向けて調整を行わせていただきたいと思います。</p> <p>以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了したいと思います。</p> <p>【15：30 閉会】</p>
-----------	--